

令和7年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	23004		事業名	ニホンザル等獣害対策事業			
	事業手法	☒ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ 補助等 ☐ その他()						
	施策体系	施策の大綱	03:交通拠点性を生かした都市活力の向上			予算科目	会計	01:一般会計
		基本施策	03:農林業の振興				款	06:農林水産業費
		施策の方向	02:農業経営の安定化				項	01:農林水産業費
		重点プロジェクト	-				目	03:農業振興費
事業期間	R 5 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	鳥獣被害防止特措法				

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	産業環境部
課	環境課 生物多様性・獣害対策G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	鳥獣被害は営農意欲の減退、耕作放棄・離農の増加等をもたらすとともに、ニホンザルによる人的被害が発生するなど、生活環境にも影響が生じており、有害鳥獣被害の軽減に向けた対策が強く求められている。	市民、自治会及び農業従事者	有害鳥獣による農作物の被害を軽減するとともに、市民生活の安全・安心を確保する。	鳥獣被害防護柵設置への補助等を通じて、市民の被害防除への取り組みを支援する。また、ニホンザルの生息調査を行い、群れ毎の管理計画等を策定し、個体数の管理を進めるとともに位置情報の提供や追払用資材の支給など、ニホンザル対策チームを中心とした対策を実施し、PDCAサイクルによる効果的なニホンザル対策を推進する。

③ 事業の実施状況 (P・D)

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度			
事業計画				○追払用資材支給・防護柵設置補助 ○ニホンザル個体数管理 ○ニホンザル位置情報システム運用 ○ニホンザル生息調査・群管理計画策定 ○ニホンザル対策チームによる対策の実施		○追払用資材支給・防護柵設置補助 ○ニホンザル個体数管理 ○ニホンザル位置情報システム運用 ○ニホンザル生息調査・群管理計画策定 ○ニホンザル対策チームによる対策の実施		○追払用資材支給・防護柵設置補助 ○ニホンザル個体数管理 ○ニホンザル位置情報システム運用 ○ニホンザル生息調査・群管理計画策定 ○ニホンザル対策チームによる対策の実施			
				市民等に対し追払用火火の配布や防護柵設置に対する補助、位置情報システムによるサルの出没情報を発信した。亀山C群はGPSによる行動域を調査したほか、規模(頭数等)や加害レベルを調査した。市・猟友会・自治会連合会・亀山サルの会で構成するサル被害対策チームを新たに組織し、捕獲や出前トークを通じて被害軽減に取り組んだ。		三重県猟友会亀山支部と連携して有害鳥獣の捕獲を進めた。また、サル被害対策チームによる出前トークの開催や追払用火火の配布、防護柵設置補助やサルに関する調査により被害軽減に取り組んだ。さらに、三重大学及び猟友会と連携し、サル及びシカについてGPSを活用した獣害リスクマップの作成に着手した。		三重県猟友会亀山支部と連携して有害鳥獣の捕獲を進めた。また、サル被害対策チームによる出前トークの開催や追払用火火の配布、防護柵設置補助やサルに関する調査により被害軽減に取り組んだ。引き続き三重大学とも連携し、サル及びシカについてGPSを活用した被害リスクマップの作成への調査を定期的の実施した。			
計画額	事業費			37,100千円	29,134千円	35,100千円	30,080千円	33,600千円	28,402千円		
		国・県支出金		2,500千円	3,737千円	2,500千円	6,000千円	2,500千円	9,451千円		
		地方債									
		その他									
		一般財源		34,600千円	25,397千円	32,600千円	24,080千円	31,100千円	18,951千円		
決算額	事業費			27,853千円		27,922千円		26,226千円			
		国・県支出金		3,737千円		4,672千円		4,269千円			
		地方債		0千円		0千円		0千円			
		その他		0千円		0千円		5,000千円			
		一般財源		24,116千円		23,250千円		16,957千円			
①期間内計画額(R4-7)		105,800千円		②期間外計画額(R8-)		-		①+②総計画額		105,800千円	

(令和7年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	28,402千円
次年度への繰越額	0千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	農作物被害額	ニホンザル・シカ・イノシシ等による農作物被害額の合計	成果	千円	計画値		6300	5600	4900
					実績値		6521	7841	11087
	ニホンザル生息調査実施率	群の個体数や行動範囲及び行動ルートを把握した群の割合	活動	%	計画値		50	80	100
					実績値		20	20	20
					計画値				
					実績値				

⑤ 成果 (C)	判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
B		自治会やまちづくり協議会を対象に出前トークを実施したことで、有害鳥獣の侵入防止や追い払い、エサ資源や棲み処の状況改善等を周知啓発することができた。また、猟友会に委託して有害鳥獣を捕獲したことで、被害軽減を図ることができた。さらに、三重大学及び猟友会と連携し、亀山C群のサル及びニホンジカにGPSを装着して行動域を調査したことで、獣害リスクマップ作成のためのデータを蓄積することができた。
	まずまず成果を得た	

事業の対象	事業の目的
市民、自治会及び農業従事者	有害鳥獣による農作物の被害を軽減するとともに、市民生活の安全・安心を確保する。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	野生鳥獣による人的被害を防止するため、小中学校教員や小学生を対象とした出前トークを定期的に実施する必要がある。また、個々では対応しきれない獣害対策もあることから、広域での侵入防護柵の設置や藪の刈り払いなど地域での体制構築を支援する必要がある。さらに、猟友会による有害鳥獣の捕獲頭数は増加しているが、捕獲による被害軽減効果を高めるためには、加害個体を優先的に捕獲する等の対策を検討する必要がある。

⑦ 事業 の 展 開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和8年度で対応する(した)もの	令和9年度以降で対応するもの
	県やまちづくり協議会等と連携して地域ぐるみで実施する獣害対策のモデルケースをつくっていく。三重大学及び猟友会と連携し、獣害リスクマップ作成に向けて調査研究を継続的に実施をしていく。また、国費を利用した獣害防止柵の地際対策(関町新所)や獣害防止柵(辺法寺町明戸)で設置していく。	県やまちづくり協議会等と連携して地域ぐるみで実施する獣害対策を進める。三重大学及び猟友会と連携し、獣害リスクマップ作成に向けて調査研究を継続実施する。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定		B	B	B
事業展開		継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)

(履歴)

1次評価者	産業環境部 環境課 生物多様性・獣害対策GL 小澤 栄一
最終評価者	産業環境部 環境課 参事(兼)課長 村田 博